

会社員→地域おこし協力隊→ぶどう農家デビュー

新規参入 就農1年目



山田 俊さん（鶴田町）

就農のきっかけ

埼玉などで10年程のサラリーマン生活、変化が激しく、家族と過ごす時間もとりづらい仕事に身を置く中で、今後ずっと働き続けられるのか漠然と不安に感じていました。そこで元々興味があった農業、できれば果樹農家を目指したいと考えて、果物の生産で知られる山梨や山形を検討していました。想いを抱きつつ地方暮らしを支援する「ふるさと回帰支援センター」を訪れると、妻の母の実家があり、毎年ねぶたを見に行くなど、「縁」を感じていた青森県の担当の方から鶴田町の地域おこし協力隊を勧められ、妻ともども令和3年6月末まで活動しました。

〇就農にあたっての課題

就農を目指し鶴田町の地域おこし協力隊として働くことに対して、両親は反対しました。安定したサラリーマンという地位を捨てることや、未経験の農家という職業に、両親も不安があったようです。今では、収穫時期になると、実家の名古屋から手伝いに来てくれる程、協力的になりました。

サラリーマン時代は、朝8時から夜10時まで働き、家族との時間が中々とれません。農業に転職した今は、園地で娘と過ごすなど、家族と一緒に時間が増え充実しています。

〇活用した就農支援策等

農業次世代人材投資資金（経営開始型）

就農を考えている方へのメッセージ

家探しには3年たった今現在でも悪戦苦闘しています。選果場所やスプレー等の機材を置く場所がなく苦労しているので、移住する前に、やりたい品目を考えながら、十分検討して住まいを決めてください。

決意して心に決めた土地に至れば農業をやるしかない。なんとかなります。

自己紹介

- 〇氏名・・・山田 俊さん（35歳）
- 〇出身地・・・岐阜県可児市
- 〇経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・56a
 - ・作付品目・・・ぶどう（スチューベン、オリンピア）
 - ・販売先・・・五所川原第一青果(株)

就農してからの課題や想い

〇取り組み

地域おこし協力隊のときは、農作業体験やインターネット交流サイトで地理的表示（GI）が認められた「つるたスチューベン」などに関する情報発信を行うとともに、3年間、町内の農家からぶどうの栽培技術を学びました。

経営するぶどう園は、引退した農家の方から購入したため、支柱などの施設をそのまま利用でき、経済的に助かりました。

また、軽トラックやスピードスプレーヤー等は、地域の農家の方から借りることができたため、初期投資もほとんどかかっていませんし、メンテナンスも機械の所有者が手伝ってくれるため、非常に助かっています。

地域の方々から応援していただけるのは、地域おこし協力隊で3年間活動したおかげだと思っています。

鶴田町は、新規就農者と栽培技術を教えてくれる農家とのマッチングを行っており、それぞれが良好な関係を築いています。自身が1ヶ月単位で様々な園地を回り、自分に合った農家の方から技術を教えてもらうことができました。

〇今後の展望

今の面積をキープしたまま、単価の高い品種（シャインマスカット等）に挑戦したいと思っています。また、スチューベンの加工品としてジュースや草木染めキットの作成を検討しています。



【丁寧な作業でりっぱなスチューベンができあがりました】